

第3章 研究の成果とこれからの課題

前述の総合学習のねらいや仮設・方法について、その有効性を生徒や教師のアンケート結果から考察すると、次の通りである。

a. 生徒アンケートの結果

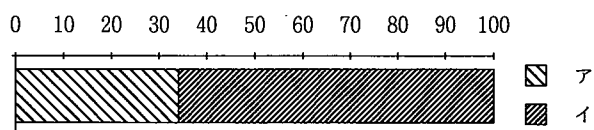
1. 総合学習の全般について

① (2.3年) あなたのジャンルはどれでしたか。

ア 環境

イ 国際理解

2・3年



② 時間割にある授業以外にかかった総合時間は何時間でしたか。

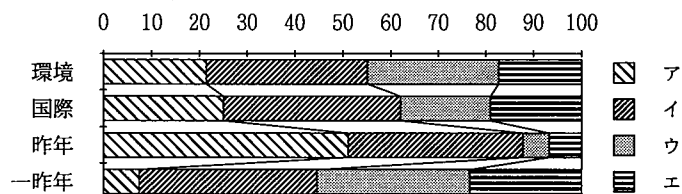
(2.3年)

ア 1～2時間

イ 2～5時間

ウ 5～10時間

エ それ以上



③ 総費用は何円かかりましたか。

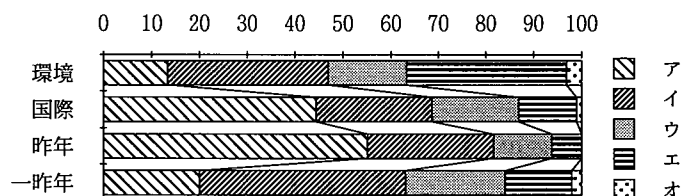
ア 0円

イ 500円まで

ウ 1000円まで

エ 10000円まで

オ それ以上



④ 普段の授業とくらべて楽しかったですか。

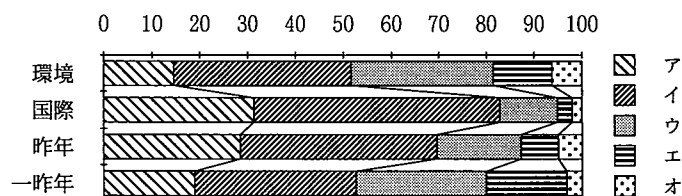
ア はいとても

イ はい

ウ 同じです

エ いいえ

オ 全然楽しくない



⑤ 普段の授業とくらべて大変でしたか。

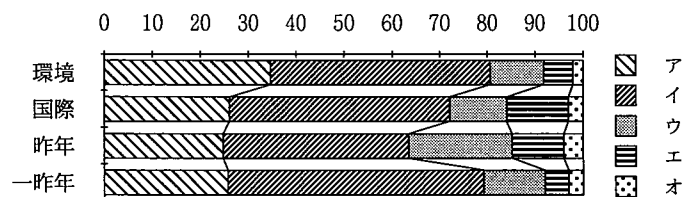
ア はいとても

イ はい

ウ 同じです

エ いいえ

オ 全然大変ではない



⑥ 総合学習は充実していましたか。

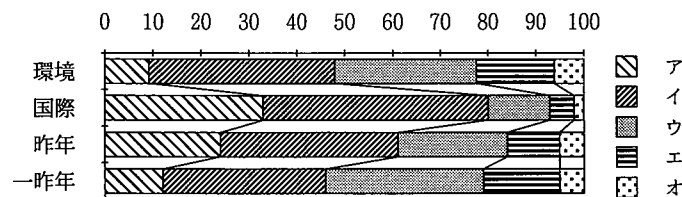
ア はいとても

イ はい

ウ 同じです

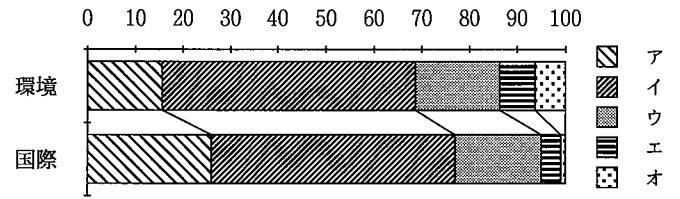
エ いいえ

オ 全然充実していない



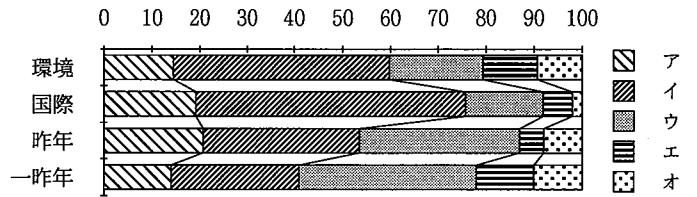
⑦ 総合学習は、自分のものの見方や考え方を見つめなおす機会につながりましたか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ 同じです
- エ いいえ
- オ 全然思わない



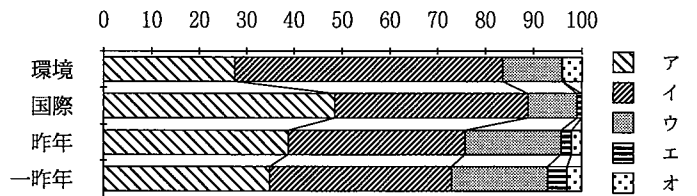
⑧ あなたの学習した内容や方法は今後の生活に役立ちそうですか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ 同じです
- エ いいえ
- オ 全然役立たない



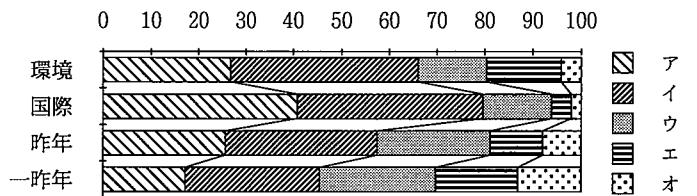
⑨ 総合学習のように自分達でやる学習は大切だと思いますか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然思わない



⑩ また総合学習のように自分達でやる学習がしたいと思いますか。

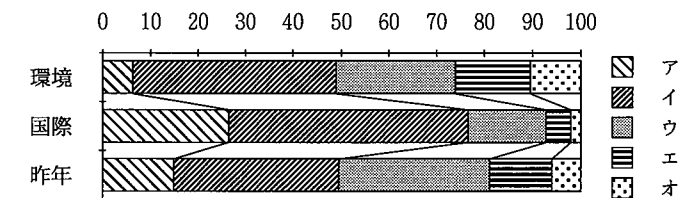
- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然思わない



2. 活動について

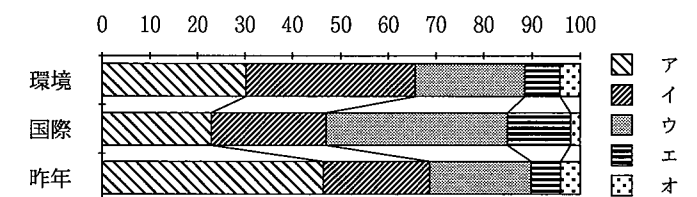
⑪ あなたの講座の活動は、あなたの期待していた内容でしたか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



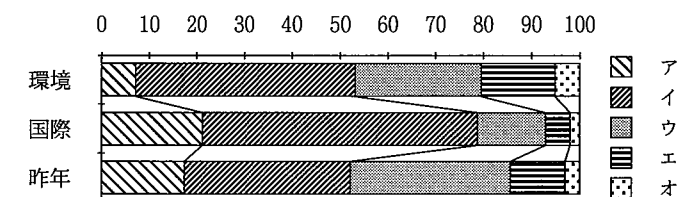
⑫ 講座を選択するのではなく、自分のテーマを決めたいと思いますか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然思わない



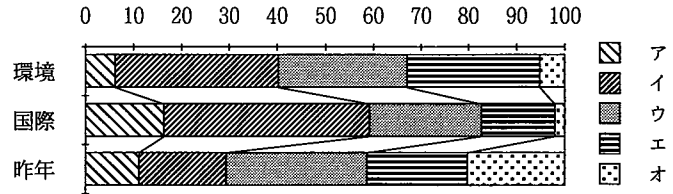
⑬ あなたの講座はあなたのやりたいことができますか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



⑭ 本当に自分のやりたい講座がありますか。

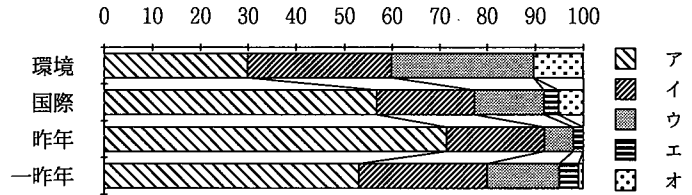
- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



3. 体験・調査について (見つめなおす機会につながりましたか。)

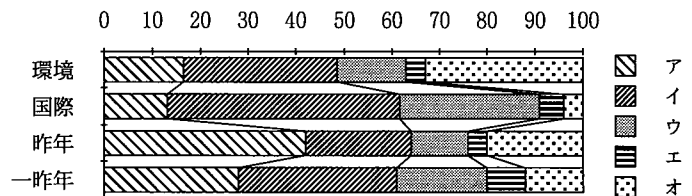
⑮ 総合学習で必要だった電話の回数は。

- ア 0回
- イ 1~2回
- ウ 3~5回
- エ 6~10回
- オ それ以上



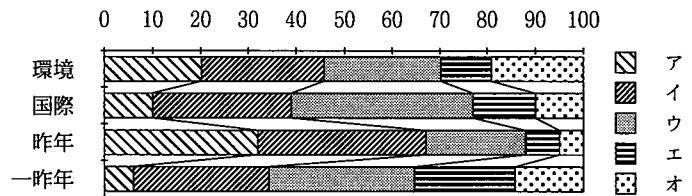
⑯ 総合学習で出会った方 (附属中の教職員や生徒以外)

- ア なし
- イ 1~2人
- ウ 3~5人
- エ 6~10人
- オ それ以上



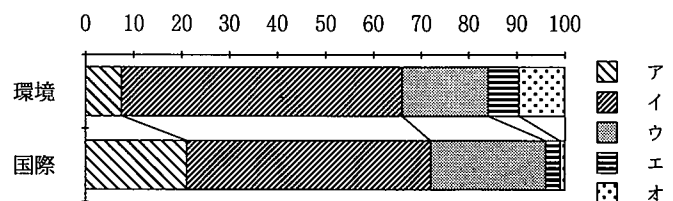
⑰ 調べた本やパンフ数 (まとめは除く)

- ア なし
- イ 1~2冊
- ウ 3~5冊
- エ 6~10冊
- オ それ以上



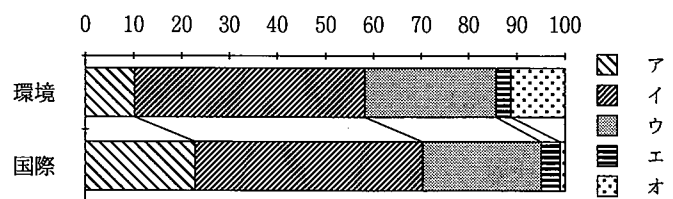
⑱ 総合学習で体験・調査したことから、新しいものの見方や考え方に気づきましたか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



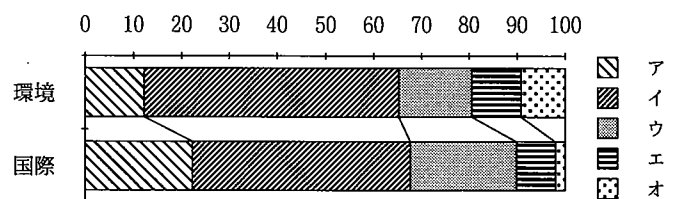
⑲ 総合学習で体験・調査したことは、自分のものの見方や考え方を見つめなおす機会につながりましたか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



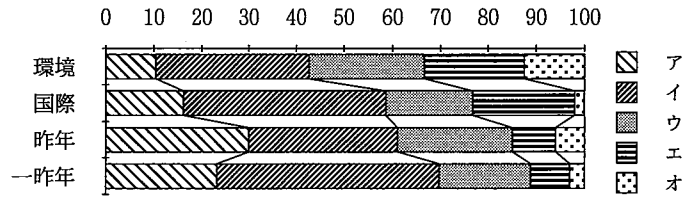
⑳ 友達の体験または調査の仕方は、参考になりましたか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



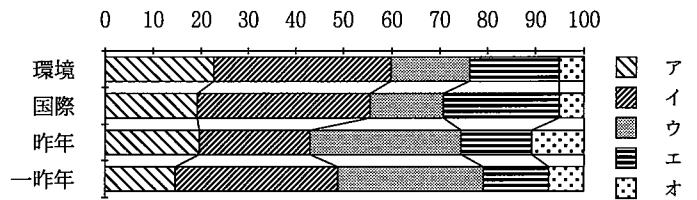
⑳ 探していた資料には出会えましたか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然なかった



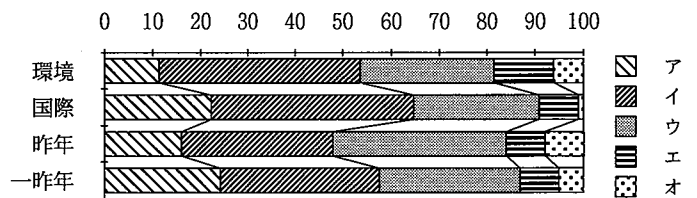
㉑ 資料収集の方法をもっと教えてほしいと思いますか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



㉒ 自分達で集めた資料は自分にとって価値があると思いますか。

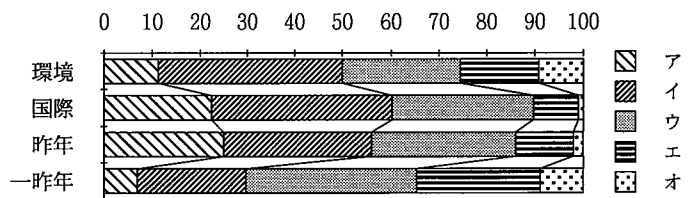
- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然ない



4. データーの加工 (まとめ) について

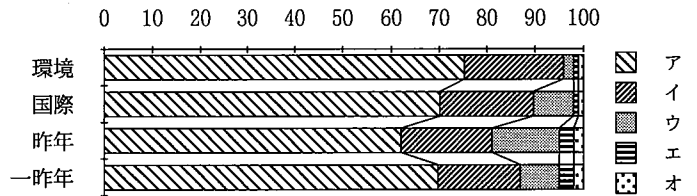
㉓ 人にアピールできるように加工 (まとめが) できましたか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然ない



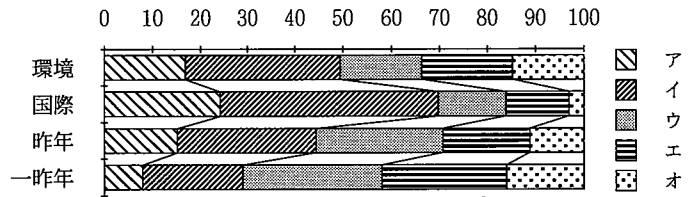
㉔ 加工は自分達だけでできましたか。

- ア ほとんどすべて自分達でした
- イ 7~8割
- ウ 半分
- エ 2~3割
- オ 1割程度



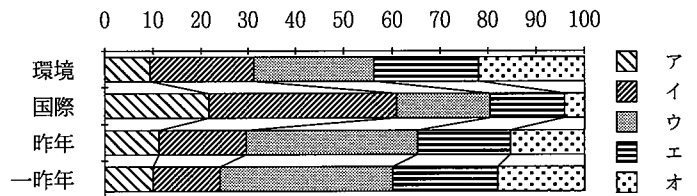
㉕ 加工 (まとめ) 活動は楽しかったですか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然楽しくない



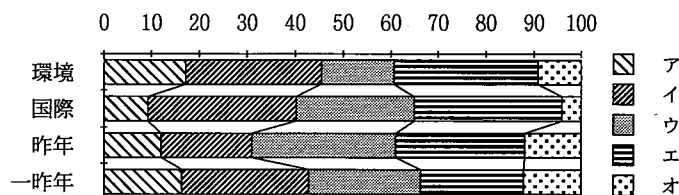
㉖ まとめたことをお世話になった人に見てもらいたいですか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



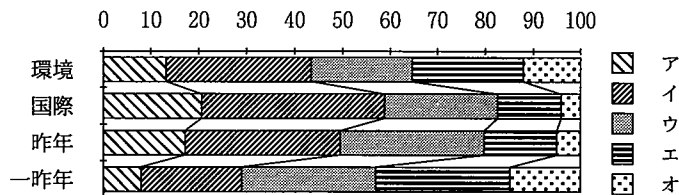
⑳ まとめかたをもっと教えてほしかったと思いますか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



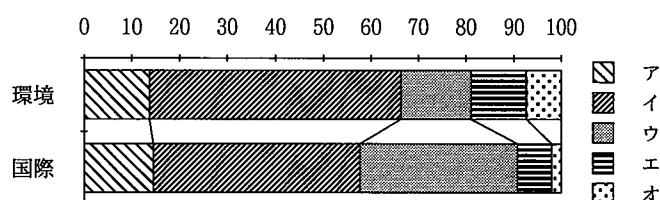
㉑ 自分達のまとめに満足していますか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



㉒ 学習したことをもとに、自分なりの提言をまとめることができましたか。

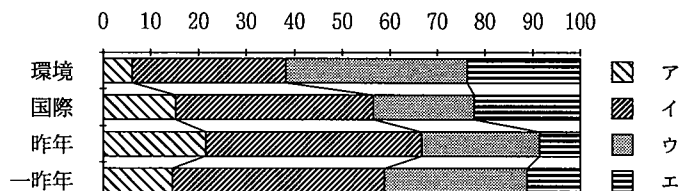
- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



5. 講座内容発表について

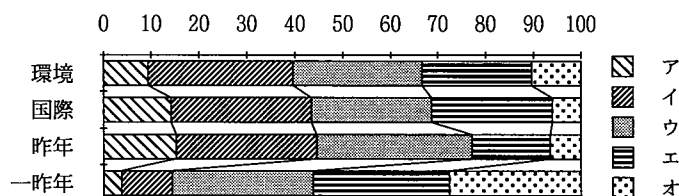
㉓ 発表時間は何分でしたか。

- ア 1～2分
- イ 3～5分
- ウ 6～10分
- エ それ以上



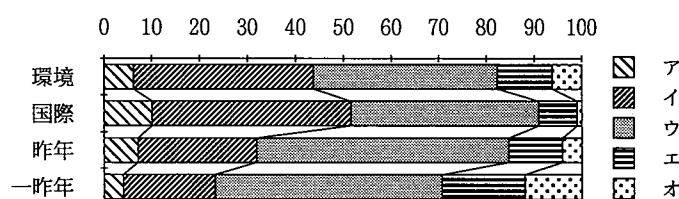
㉔ 自分達の発表は工夫できたと思いますか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



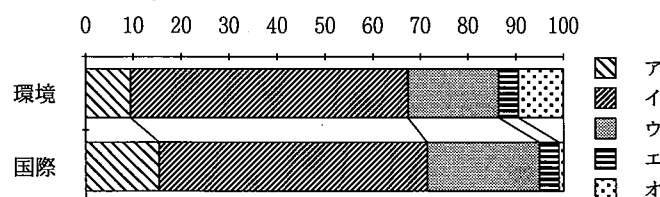
㉕ 自分達の言いたいことがわかってもらえたと思いますか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



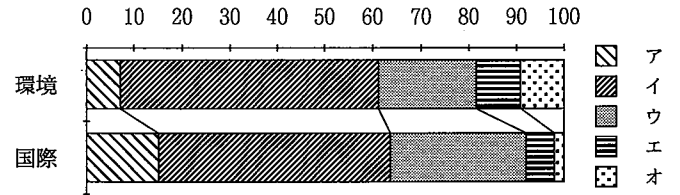
㉖ 友達の発表を聞いて、新しい見方や考え方に気づきましたか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



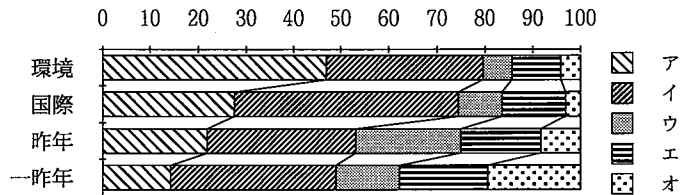
③⑤ 友達の発表を聞いて、自分のものの見方や考え方を見つめなおす機会につながりましたか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



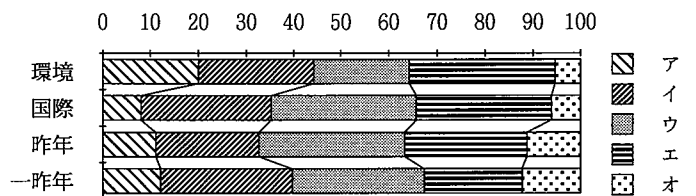
③⑥ 話すこと以外の方法も取り入れて発表しましたか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



③⑦ 発表の仕方をもっと教えてほしかったと思いますか。

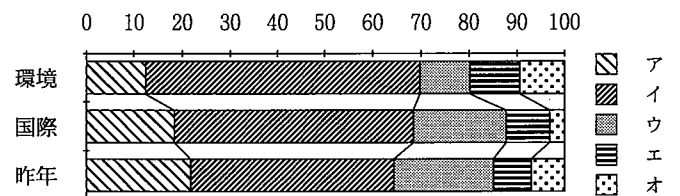
- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



6. テーマ別発表・意見交換について

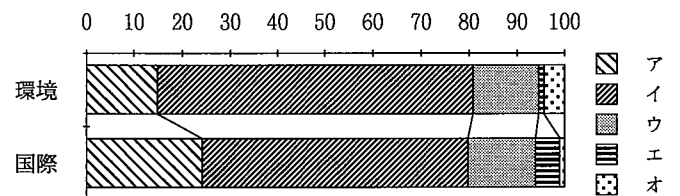
③⑧ 全校発表で参考になった発表方法がありましたか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



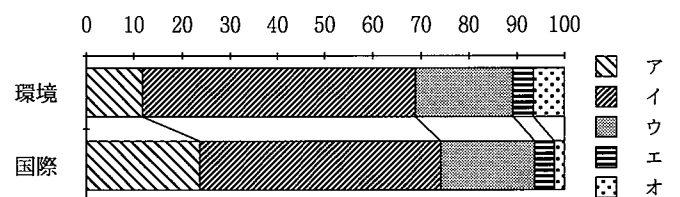
③⑨ テーマ別発表で、新しいものの見方や考え方が見つかりましたか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



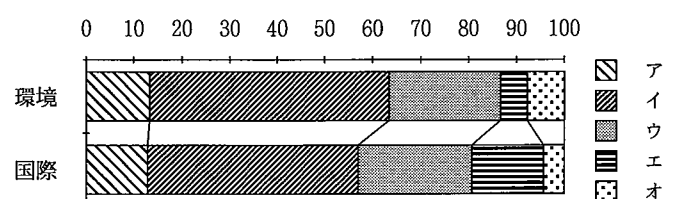
④⑩ テーマ別発表は、自分のものの見方や考え方を見つめなおす機会につながりましたか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



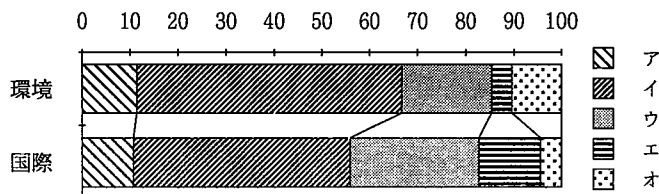
④⑪ テーマ別発表会の意見交換会について、新しいものの見方や考え方は見つかりましたか。

- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



④② テーマ別発表会の意見交換会について、自分のものの見方や考え方を見つめなおす機会につながりましたか。

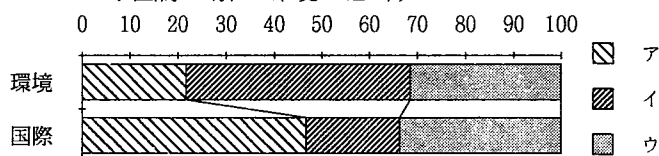
- ア はいとても
- イ はい
- ウ わからない
- エ いいえ
- オ 全然



7. 来年への希望

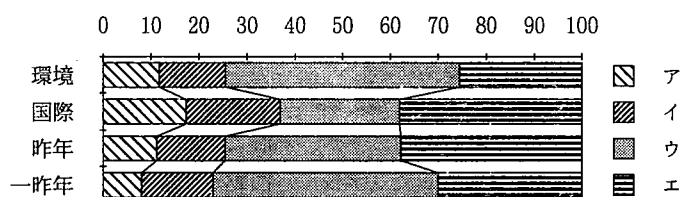
④③ 来年もするとしたらテーマはどうしますか。(テーマとは◇国際理解・環境の意味)

- ア 同じテーマにする。
- イ 違うテーマにする。
- ウ わからない



④④ 来年もするとしたら講座はどうしますか。

- ア 同じ講座を深める
- イ 似た講座にはする
- ウ 全然違う講座にする
- エ わからない



今年で3年を終えた総合学習は、これまでの教師の一方的な知識・技能の教授から、自らが課題をもち、体験を通して学習するといった主体的な課題追究を促し、テーマ群別に討論会を行うものとして生徒に受け入れられてきている。

つまり、生徒が将来を生き抜くための選択力・表現力・実行力・社会性・発言力など能動的な力を身につけていくための、一方向から双方向への転換であった。

総合学習の大きなねらいは、自らの認識と感性を豊かにする生き方の追求である。

特に2、3年生では、その仮説の中で、体験や調査を通して社会やそこに生きる人々にふれることによって、多くの見方や考え方の違いや共通性に気づかせることを掲げているが、環境で66%、国際理解で77%の生徒が総合学習を通して、自分のものの見方や考え方を見つめ直す機会につながったと答え、仮説の有効性は高いものになっている。

一方、総合学習の福祉・環境・国際理解というテーマについては、教科では捉えられない様々な学習内容を含んではいるが、アンケートの結果が示すように、中学生が興味をもって主体的に取り組むテーマとしての有効性は疑問である。

またテーマを、学年によって1年生は福祉、2・3年生は環境または国際理解から選択する設定が、果たして適当かどうか疑問が残るところである。

ただ、平成5～6年度には生徒の自由課題で行ったが、その際、生徒が掲げた課題は多種多様にわたり、教官の配置や支援が非常に難しかったという経緯がある。こうした点から考えて、教師がぜひ取り組んで欲しいと願うテーマと、生徒が取り組んでみたい課題には、はっきりとしたギャップがあると言わねばならない。その点を打開するには、この両方の総合学習を開設することが望ましいが、現状の時間数では難しく、生徒の興味づけを行い、生徒が夢中になれる学習活動を工夫しなければならないと考えられる。

調査したデータの加工・処理の仕方について、アンケートでは半数の生徒が不満を持っており、その加工・処理の仕方について教師のアドバイスを求めている。この原因は、今年度はスタートが遅れたため、夏休みが十分生かされず、二学期に入ってからまだ調査や体験などを行ったことによる。そのため、データの加工・処理の仕方について十分時間を確保できず、個々にまとめたものを発表会に持ち込むことになった。したがって、仮説にあるように「作品をまとめることによって、生き方を見つめる・見つける」までには至らなかったと考えられる。ただし、自分たちのまとめたものを発表する場で他人の発表を聞くことによって新しいものの見方・考え方(価値)に気づく機会にはなったようである。

b. 教師用アンケートの結果から

① 講座の内容はいかがでしたか。(教科の専門性を生かした点など)

- ☆ 自然環境とか、原子力とかにテーマを求めた生徒には、ある程度専門性を生かした助言ができた。
- ☆ 教科の専門性を十分生かせなかった。教科の専門性を生かすという発想だと選択との区別がつきにくくなるのでは。(総合は)教科の壁を越えるところに特徴があるのでは。
- ☆ 教科を生かす講座設定は数学にとって苦しいものがあった。
- ☆ 国際理解を数学という窓から見るという点について、難しさを感じた。
- ☆ 教科の専門性とはまったく無縁。
- ☆ 専門性は生かすことはなかったが、良かった。
- ☆ なぜ教科にこだわるのかという思いがある、内容的にも希薄なものになったように思う。
- ☆ 昨年よりも講座テーマを絞り込んだためにより充実してきた。
- ☆ 体験重視の内容を考えたが、適切な交流相手を捜すことができず、あまりよい内容とならなかった。相手の予定とこちらの時間を合わせるのが難しかった。
- ☆ それぞれの教科の特性を生かして作品作りに取り組むことができた。
- ☆ 調査学習の経験が生かされていた。合科的な内容で

② 生徒の活動の様子はいかがでしたか。

- ☆ 2年生は積極的であったが、3年生は今一つその場しのぎのような生徒が多かった。
- ☆ 個人差が大きい。
- ☆ 体験を取り入れながら熱心に活動していました。発表準備も意欲的に取り組んでいた。
- ☆ 主に文献調査であったが、熱心に活動していた。それなりにより体験になったのでは(表も)。
- ☆ 無理をお願いして(学校に)活動させてもらい、十分な活動ができた。
- ☆ 他人任せにする部分がある。役割分担がはっきりするとよく動く。
- ☆ 目的や方向があきらかな時はそれなりの取り組みをするが、そうでないときはふらつく。
- ☆ グループ活動中心。製作や発表活動までつながり、昨年より充実してきた。
- ☆ 生徒は喜んで活動していた。
- ☆ 調査→制作と流れがスムーズに行った。制作にあたって役割によっては流れが途切れることが難点。演劇にあたった生徒は生き生きと活動していた。
- ☆ とても熱心に活動していた。普段の授業より生き生きとしていた。

③ 資料等、準備はいかがでしたか。

- ☆ 調査対象は過去からの経過が生かされた。
- ☆ 必要なものは8割はあった。来年はさらに充実させたい。
- ☆ 外部講師から話を聴いたのは大変勉強になった。資料も全国から取り寄せ、かなりそろってきた。
- ☆ 講師には恵まれたが、資料は県立図書館、市立図書館にしかなかった。
- ☆ 今回初めて資料作りが始まった。
- ☆ 昨年に引き続いてのことで、施設の方との人間関係ができていた。
- ☆ すべてが一から自分で準備、交渉したので大変だった。
しかし、新たらしいネットワークが広がり、良い経験だった。
- ☆ 必要な資料等を捜すのが大変だった。
- ☆ 個人差が大きい。あまり満足できるものではなかった。

④ 時期・時数はいかがでしたか。

- ☆ 夏休みをはさんでよかった。
- ☆ 夏休みをあてにするのはどうか。あてにするなら教師も一緒。
個人、グループ単位の活動になると指導者の数が少なく難しい、
- ☆ 夏休みを活動の中心に置くのが丁度よい。時数は十分。
- ☆ (生徒の二学期の負担を考慮して)夏休み後にレポートを完成しておくぐらいの気持ちでやらないといけないかも。
- ☆ ちょうど良い。研究部のガイドブックが役に立ち、助かった。
- ☆ まとめ段階で授業外の時間を多く使ったので、後半に十分な時間が欲しい。
- ☆ 5～10月で、夏休みをはさむパターンが良い。
- ☆ 実際に活動する時間が少なかった。

- ☆ もう少しあっても良かった、おわりが早かった。当初の予定通りだとちょうど良かった。
- ☆ 時期は適当、時数はあと6時間ぐらい必要。

⑤ テーマ別発表会のもち方についていかがでしたか。

- ☆ 演劇を見られなかった生徒のためにVTRで鑑賞した。
- ☆ 「発表会のための発表会」的な色彩も感じられた。保護者にも呼びかけた方が良いのでは。
- ☆ 日程に無理があり、皆準備が大変だった。当日の流れも徹底されていなかった。外部講師は良い刺激となった。
- ☆ 時間や内容の深まりの点でテーマ別はしかたないと思う、しかし、他のテーマ群の発表も見たかった。
- ☆ 1年生のクラス発表は良かった。
- ☆ 良かった。発表の仕方は伸ばしていく余地がある。
- ☆ 発表の時間によって内容も変わってくると思う。
- ☆ 質的にも高い、良い発表会だった、できれば、全講座の発表が聴きたかった。
- ☆ 要は、一人一人の意識の問題。意識が高まるかどうかは、講座のテーマ(課題)にかかっている。
- ☆ 自然科学分野での調査研究の方法が不十分。環境の生徒は指導する必要あり。

⑥ 来年度に向けての意見、要望

- ☆ もう少し自由度を高めてはどうか。
- ☆ テーマ群で反省をまとめて、取り組ませ方や良いテーマを選び出すなどの作業を進めていけばどうか。
- ☆ 総合で教科の専門性を生かすのは苦しい。必修、選択、総合と考えると選択で生きる。似通った講座が多い→講座の精選が必要。数学は総合からはずして欲しい。
- ☆ 来年度の研究会、教科と総合学習の合体パターンは大変。
- ☆ 何度も研究教官会を開くことなしに流れないか。教科にも取り組めるような研究部のかじ取りを期待。
- ☆ 学年単位で内容を変える必要が生じると一からのスタートで戸惑う。つながりが切れないといい。
- ☆ どうして教科を通してという観点になるのか。もっと楽しく進められないものか。
- ☆ 合科も考えたら良い。でも、講座の人数負担も増えて大変かも。
総合学習もおもしろいが、負担も大きい。必修、選択、総合の並びはいいが、合理化して紋らないと大変。
総合学習の環境作りをもっと地域と協力して進める必要あり。
- ☆ 講座の精選。人材バンクの準備。個人で探すには限界がある。社会の迷惑配慮すべき。
- ☆ 「必ず教科を生かして」というのはやめて、「できれば」にした方が良い。
- ☆ 合科的学習は、教科でできなかった活動や内容ができ、生徒にとっても大変有意義な学習であった。今後も続けられたら。

講座間の取り組みが見えにくいという昨年度の反省に基づき、総合学習のねらいの確認。テーマ群別の目標設定後、テーマごとのグループ検討会をもち、テーマ内やテーマ間の教師の連絡、調整を十分図りながら進めたため、各講座同士の情報交換は十分にできた。

しかし、教科としての専門性を総合学習で生かすことについては、総合学習が教科の壁を取り払った学習形態という点から教科の専門性を総合学習で生かすことに疑問を感じ、教師自身の自由な発想を生かすことを望む声も多かった。

さらに、教師自身の負担の面から考えると、今年は全員で総合学習を行ったため、教科の学習と福祉体験、教科の学習と選択教科の学習と総合学習といった加重負担が課題となった。

今後は、選択教科と総合学習を並列に設定したりして、3年間を見通した上で、生徒の選択幅を広げる工夫が必要である。

(3) これからの課題

今後の学校教育では、週休二日制の完全実施に向け、カリキュラムの見直しが行われるのは必至である。このような状況の中で、これからの時代に要求される学力の検討と、必修教科の内容の精選が迫られることになるであろう。

このような現状を十分認識し、今後は、各教科、教科等で身につけた経験が、選択・総合学習でどのように生かされ、発展させることが可能か。

また、「福祉」・「環境」・「国際理解」のテーマを各教科・教科等の学習、選択学習でどこまで追求が可能かどうかを双方から検討することにより、「各教科の学習」・「教科等の学習」・「選択教科の学習」・「総合学習」の関連づけと相互補完関係を明確にし、限られた授業時数の中で、より効率的な学習内容とその方法の検討が必要であろう。

(原 宏/研究部)